

心のノート

No.8 2021年(令和3年)10月13日(水)



10月6日(水)の道徳は、『平和のバトン アンネ・フランクの形見のバラ』という教材を通して考えました。



アンネ・フランク

「アンネの日記」の作者、ドイツ生まれのユダヤ人少女アンネ・フランクは、2年1ヶ月の間、アムステルダムで隠れ家生活の後ナチスに捕らえられ、アウシュビッツ強制収容所などに入れられました。アンネのようにホロコーストの犠牲となった子どもの数は150万人と言われ、彼女の体験はその1つに過ぎません。

【生徒の学んだこと、印象に残ったこと、考えたこと、感想より】

*福山に「アンネのバラ」があることは知っていたけどアンネについてあまり知らなかったのが知れてよかったと思いました。アンネが望んでいた平和について今私たちが笑って暮らしているのが当たり前じゃないことを改めて考えさせられた。

*他人事と考えず、今も戦争をしている国とかもあるので、話し合いで解決できる世の中になってほしいと思った。「言ったら相手はどう思うか」を考えることで気遣いができるから平和になると思う。

*私はホロコーストの迫害についてこう思いました。ユダヤ人だから？ドイツ人だから？何？というような疑問を持ちました。ユダヤ人もドイツ人も同じ人間なのにこうも差別されないといけないのだらうと思いました。これからは一生こんなことが起こらないように平和に暮らしていけたらいいなと思いました。

*平和をつくるためには、平和を願い、平和のバトンをつなぐように伝えていくことが大切だと思いました。

*DVDではホロコーストやアンネについて知りました。私はDVDを見ていてとても悲しくなりました。なぜなら何も悪いことをしていないユダヤ人の人達を「生きている価値のない人間」などと言うからです。自分の価値は人に決められるものじゃないし自分で見出すものだから。

*ホロコーストはとてもひどく残酷だと分かりました。「ホロコーストは遠い昔の話ではない」という動画での言葉を聞いて確かに他人ごとではないのだらうと思いました。また今の自分たちの生活も当たり前ではなく感謝しなければならぬと思いました。なぜ人間同士仲良くなれないのか疑問なので、これからその疑問の解決をどうしたら平和になるのかについて考えていきたいです。

*差別というものがあるだけで何万人もの人が虐殺されていたことを知った。オットー・フランクさんの言う通りたくさんの子供たちが殺されたことに同情するだけでなく、「平和を作り出すために自分には何ができるか」小さなことでもいいから貢献できることを見つけ実行することが大切なんだなと思った。

*福山に咲いているアンネ・フランクの形見のバラも誇らしいものなのでもっと知りたいです。この事件は生きている全ての人類、私たちにも関係のあることなのでしっかりみんなで考えていくべきことだと思います。

*平和をつくるためには過去あったことを知って、それを何らかの機会でも伝えられるといいなと思います。



150万人の子どもたちが殺されたことに同情するだけではなく平和を作り出すために何かをする人になってください。あなたにしか出来ないことがあります。

アンネの父 オットー・フランク